



上越支部 稲田道場 所属

Yuhari Tokudome

徳留 悠陽 (トクドメ ユウヒ)

『僕にとっての空手』 徳留 悠陽

僕は小学一年生から空手を習い始めました。

初めは「疲れる」という理由で、正直、空手の稽古に対して、前向きではありませんでした。けれど、空手を続けるにつれて、友達ができたり、後輩ができたりと仲間が増え、嬉しいことや、楽しいことが増えました。

その一方で、真面目に稽古に取り組まず、先生に叱られることが多々ありました。

「三年生に、そんな強い人なんかいないでしょう。」という、軽い気持ちで出場した初めての大会は、勝ち進んでいくうちに、強い人と当たり、結果三位に終わりました。大会に出場した同じ道場の子たちは、強そうな相手とも果敢に戦っており、「かっこいい!」と思うと同時に、「なんでもっと真面目に稽古をやらなかったんだ。」と、悔しい気持ちでいっぱいになりました。

それからは、「自分も強くなりたい!」その一心で、稽古に前向きに取り組むようになりました。そして続けるうちに、気づくと稽古に対する憂鬱感はなくなり、「空手が楽しい」という気持ちに変わっていきました。

最近では、いろいろな型を覚え、組手では、前まで我慢できなかった攻撃も耐えられるようになりました。自分の攻撃も、だいぶ強くなりました。

「僕にとっての空手は、習い事です。」以前の僕なら、そう答えていたと思います。けれど今は、「自分を強くするもの」と答えます。何故なら、空手に出会ってなければ自分は、辛いことや面倒なことが苦手で、「自分が良ければそれで良い」という、自己中心的で、相手を尊重・配慮しない、心が弱い人間でした。

僕は、空手を通して、自分も相手も大切にすることができるようになり、心身ともに鍛えられてきたと思います。

これからは黒帯・有段者として、一つ一つの行動に責任を持ち、先輩として、みんなに憧れられるような空手家・人間になりたいです。そのために、心身を錬磨し、後輩指導もしていきたいと思います。

